

- 「ありがとう」「ありがとうございます」この言葉には何かしら温かい響きがあります。この言葉に気持ちが添えられるとその温かさはさらに美しく響きます。ちょっとオーバーですかね。毎日の生活の中で「ありがとう」のことばは、いつの間にか後回し、ついつい、ちゃんとさせたい気持ちが先走るからです。

人生はいつの時も、思うどおりにはならないことの連続、特に子どもは大人の思惑どおり行動してくれないことばかりです。

- 「腹立たしい事、気に入らないこと、辛いなーと感ずること」など人間関係の中で生きて、あらゆる事柄に出会い、「ありがとう」なんていえない。

- そんな時にこそ聖書はあえて「ありがとう」の心を奨めます。

なぜでしょうか。飛躍するように思われるかもしれませんがここには人間に与えられた自由の課題が秘められているのです。わたしどもの暮らしの中で「感謝する」ことも「不平、不満」のつぶやきに生きることも人間の自由なのです。この自由を活かして自律して、責任ある生き方をするように求められています。それが人間の特性の一つであり、尊厳でもあります。

- 「できたらあなたの幸せのために感謝する自由に生きてごらん。「ありがとう」探しの心で歩いてごらん」と聖書は呼びかけています。

.....

パパは ママにいつも「ありがとう」っていう  
 ママも パパに お礼を言う  
 二人とも喜びやお礼やさんみたいでしょ！（子どもの詩）

- 小さなことでいいのです。子どもたちの中に、家族の中に「ありがとう」探しをしてみませんか。そこにも「神さまの幸いのしるし」が隠されているかもしれませんよ。

.....

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。  
 すべてのことに感謝しなさい。  
 これは神が、あなた方に求められていることです。